

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 10日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21520565

研究課題名（和文）『日越辞典』編纂へ向けての基盤構築研究

研究課題名（英文）A Fundamental Research Project for Compiling a Japanese-Vietnamese Dictionary

研究代表者

村上 雄太郎 (MURAKAMI Yutaro)

茨城大学・工学部・教授

研究者番号：50239505

研究成果の概要（和文）：本研究では、現代ベトナム語における漢越語の意味・用法の特徴を分析した。「漢越語」を、通時的には、1890年代や1930年代刊行の辞書における記述と関連させて考察し、また通言語的には、日本語だけでなく中国語とも比較しながら分析した結果、ベトナムへの和製漢語の伝播時期の他、日本語にもベトナム語にも使われるが、その意味が著しく異なる2音節漢語や、日本語の場合とは並び方が逆になる2音節漢越語の意味・用法を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This is a study on the meaning and use of Chinese vocabulary in Vietnamese. Diachronically, by relating to the description in the dictionaries published in 1890s and 1930s, we examined the reception of Chinese vocabulary from modern Japanese into Vietnamese. Besides, cross-linguistically, by comparing to Japanese and Mandarin Chinese, we examined the semantic features of Chinese vocabulary which have very clearly different meanings in Vietnamese, Japanese and Mandarin Chinese, as well as the semantic features of Chinese vocabulary in Vietnamese which have a constituent order contrary to that in Japanese.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：漢越語、漢語表現、対照言語学、文法化、言語接触

1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代以降、日本とベトナムとの関係が深まるにつれ、日本におけるベトナム語学習者とベトナムにおける日本語学習者の数は急増しつつあった。日本の大学でベトナム語を専攻分野として設置している東京外国語大学、大阪大学、大東文化大学、神田外語大以外にも、授業を開講しているのは東京大学、亜細亜大学、東海大学、慶応義塾大学などがあった。このような状況を反映して、日本ではベトナム語の語学入門書・会話入門書が相当数、出版されていた。

(2) しかし、日本においてベトナム語関係の辞典は竹内与之助編『越日小辞典』が1986年に、竹内与之助・川口健一・今井昭夫編『日越小辞典』が1985年に出版されて以降、20年余りも日本では刊行されていなかった。上記2冊の辞典は「小辞典」であり収録語数が少なく、文例も入っていないものであった。また20年余り前に編纂された辞典であるため、内容が古くなっていた。とりわけベトナムは80年代後半以降ドイモイ（刷新）政策によって市場経済化をはかり、社会が大きく変貌するとともに、言語においても経営用語、金融用語、IT用語などが多用されるようになり、新しい語彙が多数登場してきていた。このようなことから、日本のベトナム語学習者からは収録語数が多く、時代にあった内容の本格的な『ベトナム語—日本語辞典』、『日本語—ベトナム語辞典』の刊行が熱望されていた。

本研究は、そのような状況を踏まえ、経営用語やIT用語などの新しい語彙を補った上で、慣用句や語と語との慣習的な

結びつき（コロケーションcollocations）の項目を増やし、類似表現の使い分けに対する詳しい解説を施すものとして企画されたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代日本語で使用頻度が高く重要な語彙を約5万語選定して語義を確定し、そのうちの相当数の語彙について文例をつける作業を行って語彙集・文例集を作成し、今後の『日本語—ベトナム語中辞典』及び『ベトナム語—日本語中辞典』編纂の基盤としようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 日本において、研究代表者と研究分担者が各種の国語辞典や専門用語集を収集し、それらから見出し語5万語程度を取捨選択し、パソコンに入力していく。

(2) このリストをベトナムの研究協力者に電子メールで送付し、あらかじめ検討してもらう。

(3) 研究代表者と研究分担者がベトナムに出張し、ベトナムの研究協力者とリストについて1語ずつ検討・協議する。ベトナム人学習者としての観点から、見出し語の取捨選択をチェックしてもらう。

(4) 以上の協議の後、見出し語を確定し、語義を分類し、パソコンに入力していく。

4. 研究成果

(1) 和製漢語のベトナムへの伝播状況
ベトナム語のなかには漢語由来の膨大な語彙（いわゆる「漢越語」）が存在し、現代

ベトナム語の論文体の文章では使用されている語彙の6～7割が漢越語だとも言われている。

本研究は、漢越語のなかで多数派ではないものの、相当の割合を占めている和製漢語のベトナムへの伝播・受容状況をできるだけ具体的に示そうとする試みである。Vinh Sinh (2001)や高島(2001)等の先行研究を踏まえ、各種の辞書における記載状況の調査をした結果、ベトナムへの和製漢語の本格的な伝播時期は20世紀初頭からではないかと推定でき、そして、「保証」、「電話」、「予備」、「民主」など、現在もベトナム語で使われている和製漢語の190語のうち、170語が1930年代までに伝播していることが明らかになった。

(2) 漢越語と日本の漢語との間の意味・用法のずれ

本研究では、日本語にもベトナム語にも使われている漢語語彙に対して、著しく異なる場合を中心に、その意味内容のずれ、そしてそれに加えて、その文法的な振るまいに関する相違点を調べてみた。目指すのは、いわば「同語意義」という落とし穴を、ベトナム語学習の日本語話者にも、日本語学習のベトナム語話者にも避けることが出来るようになることである。

なお、参考のために、日・越両語のほかに、現代中国語とも対照してみた。また、このような通言語的な考察に加えて、通時的な観点から、1895~1896年間、刊行された『大南国音字彙』における関連記述とも対照し考察してみた。意味・用法のずれには、様々な原因や背景があるが、割りと目立つのは、次の3つのパターンだと提案した。

①元々、中国語においては2つの意義素がある漢語としては、使用されているが、日本語やベトナム語に借用された後は、どちらか、

一つの意義素しか残らないようなパターンである。

例えば、「手段」のような語については、中国語では「方法」と「計略」という2意義素が含まれているが、日本語では「方法」という意味で、またベトナム語では「計略」という意味で使われている。

② 次に、一方がより具体的な意味で使われ、もう一方がより抽象的な意味で使われるというパターンもある。例えば、「鼓動」や「恐怖」のような漢語は、日本語で使われる場合には、具体的な意味しかないが、ベトナム語で使われると、抽象的な意味が加わるようになる。また、「始終」の場合も、日本語と中国語では「始めから終わりまでずっと」という意味であるが、ベトナム語では、「節を守る、忠実な」という意味になる。

③ さらに、もう一つパターンとしては、いわば「主観化」というものがある。

例えば、「適当」のような漢語は、元来、中国語では、「適切」や「妥当」などの意味で使われているが、日本語で使われるようになると、「要領よく」という意義素が活性化されて、「いい加減に」という意味が発生してきたと考えられる。一方、ベトナム語では、「指摘」という漢語は、元来、「(物事の重要な点や悪い点などを)とりあげて示すこと」[金田一春彦(1997)]という意味があるが、ベトナム語に借用されると、「過ちを指摘する」のような用法が活性化され、結果としては、「非難する」という意味が発生してきたと考えられる。この種の「主観化」の延長線上にあるのは、「結構」や「相当」や「適当(に)」や「道理(で)」のような、話し手の事態に対する評価や、「(いい)加減(にしなさい)」に見られるように、聞き相手に対する働きかけだと言える。この傾向の意味変化が、ほとんど、日本語の漢語にしか起こらな

いというのは、興味深い。「結構」や「相当」や「適当」や「道理」に対応する漢越語には、この種の主観的な意味合いが含まれない。

(3) 日本語の場合とは並び方が逆になる2音節の漢越語

ベトナム語で使われている漢越語は、「情報」や「成敗」等のように、日本語と全く同じ構成要素からなるにもかかわらず、著しく意味内容が異なる場合もあれば、「課外」や「祭文」等のように、構成要素の並び方が日本語とは逆になるような場合もある。このうち、「ngoại khóa」（課外の／校外の）、「ngoại lệ」（例外）、「nội thành」（市内）、「nội thất」（インテリア、屋内施設）のような、「nội」[内]や「ngoại」[外]を前項要素とする2音節の漢越語が注目に値する。ベトナム語の統語規則に則って作られたものだと考えられるからである。

具体的には、例えば、「ngoại」を前項要素とする2音節の漢越語には、次のような2種類の修飾関係がある。

- ①<修飾要素+主要素>: ‘ngoại giao’ (外交)、『ngoại quốc’ (外国)、『ngoại ngữ’ (外国語) 等
- ②<主要素+修飾要素>: ‘ngoại lệ’ (例外)、『ngoại khóa’ (課外の)、『ngoại thành’ (市外／郊外) 等

意味的には、「ngoại giao」（外交）、「ngoại quốc」（外国）、「ngoại ngữ」（外国語）等が、それぞれ「外国との交際・交渉」、「自分の国以外の国」、「よその国の言葉」という内容を表し、後項要素の‘giao’（交際・交渉）、「quốc」（国）、「ngữ」（言葉）が語全体の主要素の働きをなすのに対し、「ngoại lệ」（例外）、「ngoại khóa」（課外の）、「ngoại thành」（市外／郊外）等は、それぞれ「一般の原則から外れること、また、そのもの」、「学校で正規に定められた学科や課程以外」、「市の外」という内容

を表し、いずれも‘ngoại’[外]が主要素の働きをなすと考えられる。

本研究では、構成要素の並び方が日本語とは逆になるような2音節の漢越語の中に、「ngoại lệ」（例外）、「ngoại khóa」（課外の）、「ngoại thành」（市外／郊外）のように、「主要素が前に置かれる」というベトナム語の統語規則に則って作られたものも含まれていることを明らかにした。

本研究では、和製漢語のベトナムへの伝播時期を特定し、またその和製漢語を含む現代ベトナム語における漢越語の意味・用法の特徴を考察し、その成果を論文で発表した。現代ベトナム語における漢越語を、通時的には、1890年代や1930年代刊行の辞書における記述と関連させて考察しながら、また通言語的には、日本語のみならず中国語とも比較して分析していくという対照的な視点から研究する取り組みは、今までベトナム語学領域では行われていないため、本研究の成果の意義は大きいと考える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

- ① 村上雄太郎、今井昭夫、『現代ベトナム語における漢越語の研究（4）—ベトナム語の文法的特徴を持つ漢語要素—』、東京外大 東南アジア学、18巻、27-40、2013-3、査読有
- ② 村上雄太郎、『ベトナム語の方向動詞‘vào’の文法化—日本語の「こむ」との対照を試みて』、神戸市外国語大学 アジア言語論叢、9号、5-20、2013-3、査読無
- ③ 村上雄太郎、今井昭夫、『現代ベトナム

語における漢越語の研究(3)—日本語の場合とは並び方が逆になる2音節漢越語』、東京外大 東南アジア学、17巻、1-11、2012-3、査読無

- ④ 村上雄太郎、今井昭夫、『現代ベトナム語における漢越語の研究(2)—日本語にもベトナム語にも使われる「漢語」のうち、意味・用法の違うもの』、東京外大 東南アジア学、16巻、17-39、2011-3、査読無
- ⑤ 村上雄太郎、今井昭夫、『現代ベトナム語における漢越語の研究(1)—ベトナムへの和製漢語の伝播状況』、東京外大 東南アジア学、15巻、19-32、2010-3、査読無
- ⑥ 村上雄太郎、『方向動詞の文法化—ベトナム語の‘đén’ (着く) の場合—』、神戸市外国語大学 アジア言語論叢、8号、65-82、2010-3、査読無

[学会発表] (計2件)

- ① 村上雄太郎、『日本語の否定表現について—「～わけではない」とベトナム語における対応表現』、フエ外国語大学2012年度日本語教育セミナー、2013-3-16、フエ外国語大学 (ベトナム)
- ② 村上雄太郎、『日本語学習に役立つ「日・越辞典」の編纂に向けて—複合動詞“V+出す”と“V+RA”との対応関係の考察』、筑波大学国際研究フォーラム「日本語学習辞書の開発と日本語研究」、2010-12-11、筑波大学会館

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上 雄太郎 (MURAKAMI YUTARO)
茨城大学・工学部・教授
研究者番号：50239505

(2) 研究分担者

今井 昭夫 (IMAI AKIO)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：20203284